

松江市第2期SDGs未来都市計画 (2026～2030)

「国際文化観光都市 松江」の豊かさ創出
～地域と世代をつなぐ「水の都」と「城下町」の持続可能な発展を目指して～



島根県松江市

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 成果と課題.....	4
(3) 2030年のあるべき姿.....	6
(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	8
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	11
(2) 情報発信.....	19
(3) 普及展開性.....	19
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	20
(2) 行政体内部の執行体制.....	23
(3) ステークホルダーとの連携.....	25
(4) 自律的好循環の形成.....	27
4 地方創生・地域活性化への貢献	28

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

地域特性

(地理的条件)



本市は東西に細長い山陰地方(島根県・鳥取県)のほぼ中央、島根県の北東部に位置し、広島市から約 180 km、大阪市からは鉄道距離で約 370 km の距離にある。市域は東西 41 km、南北 31 km で、面積は宍道湖(しんじこ)・中海(なかうみ)を含め 572.96 km²となっている。

市域は、日本海・宍道湖・中海と、その多くを水域に囲まれており、大橋川によって南北に分けられた中心市街地は 6 つの橋によって結ばれ、昭和 47 年の大水害の被災経験を教訓に、大橋川拡幅と背後地のまちづくりなど安心・安全の治水事業を進めている。

(交通アクセス)

陸路は、JR 山陰本線のほか、接続する JR 伯備線で山陽方面と結ばれている。高速自動車国道網では、山陰自動車道や中国横断自動車道尾道松江線(中国やまなみ街道)、米子自動車道とのルート連携によって山陽や四国方面と結ばれている。

空路の拠点は、松江市街地から車で 30～40 分の近距離に「出雲縁結び空港」と「米子鬼太郎空港」という 2 つの空港を抱えている。

海路では、江戸時代に「北前船」の風待ち港であった七類港や近接の境港(境港市)から隠岐諸島まで高速船・フェリーが通じている。

(自然環境)

日本海の入り組んだリアス式海岸が特徴的な島根半島の南に宍道湖・中海という 2 つの汽水湖を抱く。両湖を合わせた広さは、165.3 km²と国内最大の連結汽水湖で、「ラムサール条約登録湿地」である。

塩分濃度が海水の 2 分の 1 の「中海」は国内 5 位の水域面積を誇り、安来市及び鳥取県(境港市・米子市)と接する。また、出雲市と接する「宍道湖」は、国内 7 位の面積を有し海水の 10 分の 1 の塩分濃度とされる。汽水湖ならではの個性ある生態系は「宍道湖七珍」「中海十珍プラス 1」と呼ばれる食文化としても地域に知られている。

「くにびき神話」の舞台の一つとして市民に親しまれる島根半島、宍道湖、中海は、地質学的に貴重な日本ジオパーク「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」に認定されており、海岸線一帯は大山隠岐国立公園、宍道湖北山県立自然公園などにも指定されている。

(人口動態)

<概況>

2020 年国調人口は 203,616 人で、2000 年をピークに減少を続けており、直近の高齢化率は 30.88%(2025 年 3 月)、最も深刻な地域の高齢化率は 50.2%にも達する。

一方、生産年齢人口(15 歳～64 歳)の割合は 57.6%(2020 年国調)と、減少傾向が続き、大きな危機感を持っている。

郊外エリアでは、3 地区が一部過疎の指定を受けている。

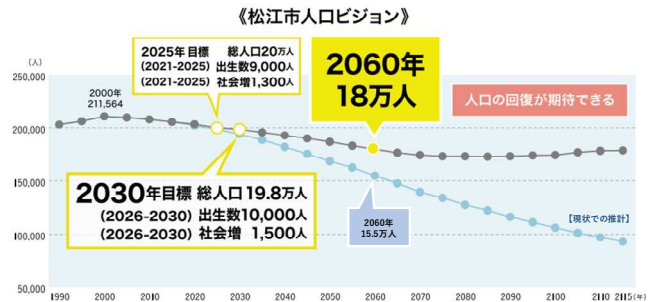
〈社会動態・自然動態〉

近年は転出超過の状態が続き、特に就学や就職を理由とした若年層の県外への流出が顕著になっている。また、2020年に1,500人を割り込んだ年間出生数はさらに減少している。転入については、近年Uターン者数、Iターン者数ともに微増傾向にある。また、30代は社会増の傾向が見られ、2021年からは増加に転じている。

近年横ばいで推移していた合計特殊出生率(2023年)は1.41と全国平均の1.20を上回っているものの、15年ぶりに1.5を下回った。2024年も1.41と横ばいで推移しており、全国平均の1.15に比べると依然として高い水準を維持している。

〈人口ビジョン〉

本市は2005年、2011年の2度に渡る平成の大合併を経て、人口20万人の中核市となった。2024年10月1日現在の推計人口は197,280人、前年比1,743人(0.88%)の減少となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本市の人口は2060年に15.5万人まで減少するとされている。

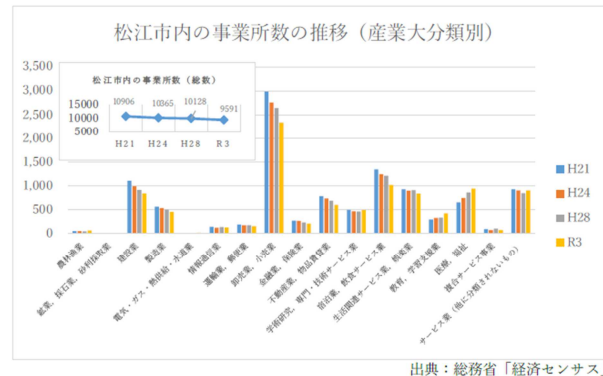


2022年3月、本市は松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定し、2060年に18万人を確保することを目標に掲げた。

(産業構造)

市内の事業所数は減少傾向にあり、産業別では、医療、福祉は増加傾向だが、その他は横ばいか減少傾向にある。

2025年8月の本市エリアの有効求人倍率は1.39倍で全国の1.20倍と比較して高い。



(地域資源)

〈城下町の暮らし〉

2015年に国宝となった現存12天守の一つ「松江城天守」をはじめ、松江藩松平家7代藩主で茶人として知られる不昧公(松平治郷)から現代に伝わる「茶の湯文化」、秋の風物詩として知られる「鬮行列(どうぎょうれつ)」、370年以上の歴史をもつ日本三大船神事の一つ「ホーランエンヤ」など、城下町の風情は今も市民の生活に残る。

〈豊かな自然と神話が息づいた文化〉

「水の都 松江」を代表する宍道湖の夕景や日本最古の美肌の湯として「出雲国風土記」に記された「玉造温泉」をはじめ、「古事記」と密接な史跡、2011年にユネスコ無形文化遺産に登録された「佐陀神能」など、出雲神話の聖地や伝統行事等が多く残る。

〈市内29地域の住民主体のまちづくり〉

全国でも珍しい公設民営型の29か所の公民館では、住民自らが主体となってまちづくり計画(地域版総合戦略)を策定し、社会教育活動や防災、地域福祉など様々な地域課題の解決に取り組んでいる。

(2) 成果と課題

第1期計画期間(2023~25年)は、2030年への中間目標として「SDGsの浸透・定着」を掲げ、市民に対しSDGsの概念や内容を共有するとともに、達成に向けた推進体制を構築する期間に位置づけて事業に取り組んだ。

■行政内部の推進体制

全庁的、横断的にSDGsを推進するため、市長以下部長級からなる「松江市SDGs推進本部」を設置し、施策決定・進捗管理を行うことにより、取組みの推進に努めた。

自治体版SDGs診断ツールを導入し、取組状況をセルフチェックしている。市としての強みや弱みが明確化され、また市内部の実施体制の成熟度などを見える化することにより、市全体での意識共有が図られた。

■主要なKPIの進捗状況

(経済)

・「市内ソフト系IT企業売上高」について、県全体を上回る伸び率でKPIを達成した。「Ruby CityMATSUE 2.0」で「MATSUE起業エコシステム」と連携しながら進めた事業化支援も後押しになったと考えられる。景気変動に強い産業環境を整えるため、新事業創出支援を継続していく。

(社会)

・「水辺が利用しやすいと感じる市民割合」は、2024年の実績値で30.9%であり、減少しているが、宍道湖・大橋川かわまちづくり計画による宍道湖周辺の公園等が改修工事の最中であるため、一時的に下がっている可能性がある。今後、官民連携による水辺空間の利活用をさらに進めるとともに、水辺ステージや多目的テラスの供用開始など順次水辺エリアの機能強化を図ることで、水辺空間の満足度の向上を図る。



水辺ステージ(市役所前エリア)

(環境)

・「二酸化炭素排出量」は、基準年度とする2013年度に対し、2022年度は16.3%の減となった。産業部門、業務その他部門、家庭部門については、企業での取組みや再生可能エネルギー設備の導入費用の補助制度などにより減少は進んできているが、さらに排出量の削減を進めていくため、新たにブルーカーボンプレジットの認証に向けた取組みなどを進めていく。

(統合)

・2024年3月に全国に公募し「松江市オリジナルSDGsロゴマーク」を選定した。ロゴマークを利活用し、市民に広くSDGsの周知啓発を図った。
・SDGs普及啓発を目的とし、未来を担う若者がSDGs達成に向けた行動の重要性を認識し、身近なSDGs活動に参加するきっかけを提供するフェスティバルを開催した。中高生によるSDGsアクションの発表、SDGsコンサート
の他、SDGsを身近に感じることができる体験ブースが出展し、目標を大幅に超える来場があっ



た。

・ジュニア SDGs リーダー育成事業として、小中学生を対象とした「島根半島ブルーツアー」を開催した。延べ 108 人が参加し、次世代のリーダー育成につながった。

・ブルーアップサイクル研究プロジェクトとして、企業との連携により、廃棄物となるシジミ殻をアップサイクルしたタンブラーを作成することで、「水の都」に因んだ循環型社会の実現に取り組んだ。タンブラーの購入数は、市内の事業者を中心に合計で 1,000 個以上となり、プロジェクト達成した。

(3) 2030年のあるべき姿

2022年3月に市民と共に新たな総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定し、SDGsの達成への意志とともに、次代を担う若者のため2030年に実現すべき松江らしい豊かなまちづくりへの道筋を定めた。

将来像 「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」

基本理念 「松江のジダイをつくる」



先人から受け継ぎ、日頃市民生活の中であたりまえとされる「水の都」「城下町」をはじめとする松江にしかない強みを、「国際文化観光都市 松江」の構築に生かしていく。

■将来像を実現し、新たな松江のジダイをつくる「5つの柱」

①しごとづくり

- 松江発のユニークな事業や産業が誕生し、起業、創業に挑戦する若者が集い、いきいきと活躍している。
- まちなかに個性的・魅力的な商店が集まり、市民や観光客がまち歩きを楽しんでいる。
- 四季折々の新鮮な農産品や魚介が食卓を彩り、市民の豊かな暮らしを支えている。
- 「国際文化観光都市・松江」の魅力が世界の人に伝わって、松江ファンが広がり、リピーターでにぎわっている。

②ひとづくり

- 子育て、教育環境が整い、だれもが「松江で育てよかった」「松江で育てて良かった」と感じる。
- 子どもたちが将来の夢や希望を描き、「生きる力」を身につけている。
- 個性が尊重され、だれもが思う存分活躍できるとともに、多様なコミュニティが形成され、市民活動や地域の繋がりが大切にされている。

③つながりづくり

- 多様な価値観や関わり方を尊重しあい、地域づくりや地域の経済活動を支える人たちのサイクルができている。
- 松江の魅力・強みが注目されて、企業の拠点・UIターン者を多く受け入れている。
- 松江の歴史・伝統・文化・芸術に親しめる環境が身近にあり、地域資源に囲まれた暮らしを市民が楽しんでいる。
- スポーツを通じて健康な心と身体をつくり、明るい希望の持てる社会が築かれている。

④どだづくり

- 市民の健康を支える医療、福祉が充実している。
- 地球環境に配慮した「松江発」の取組により、世界に誇る「SDGs 未来都市」が誕生している。
- まちや水辺に人々が集い、利用しやすい公共交通機関が確保され、社会資本の整備と地域防災力の強化によって、まちの安心・安全が保たれている。
- 市役所の手続きがとても便利になり、市民のための市政が進められている。

⑤なかまづくり

- 宍道湖・中海に抱かれた5つの市がそれぞれの強みを持ち寄り、一つの経済圏として連携を図ることで、新しい価値が生まれている。
- 活力ある経済基盤を築くとともに、脱炭素社会の形成に向けた環境対策、高速交通網の整



備など、圏域の共通課題を5市が一体となって解決している。

■全ての行政分野で推進すること

①人口減少対策の推進

将来にわたって安定した市民生活を維持するため、若者世代に焦点を当て、人口増と出生数の回復を図り、バランスが取れた年齢構成への移行を目指す。そのために、2060年に18万人(2030年に19.8万人)の人口を確保することを目標とする。

②文化力を生かしたまちづくり

市民の暮らしの根底にあり、市民の誇りとなりうる「松江の文化力」を認識し、誰もが心豊かになれるまちとなるため、「松江の文化力を生かしたまちづくり条例」(2021年3月30日)を制定した。観光や教育など様々な施策分野において松江の文化力を生かしたまちづくりを推進していく。

7つの柱



③デジタル技術の活用

本市がこれまで「Ruby City MATSUE プロジェクト」で培ってきたITブランドや、プログラミング教育を通じたIT人材育成などを発展させ、行政サービス、産業、教育、医療・福祉等あらゆる分野でのDXを進めるなど、コロナ禍の経験を徹底的に生かし、都会よりも“ちょうど良い”地方都市の豊かな暮らし方を浸透させる。



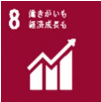


④市域内のバランスのとれた発展

将来にわたり生活に必要なサービスを維持し、市全体を持続可能なまちとするため、市街地や集落などの既存コミュニティを交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の形成を目指すとともに、中心市街地の再生を推進する。



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、ターゲット番号		KPI	
 8 水がいのち 経済成長も	8.9	指標: 観光消費額	
		現在(2024年) 600億円	2030年: 750億円
 2 排出をゼロに	2.3 14.b	指標: 第一次産業の産出額	
		現在(2023年): 91億円	2030年: 102億円
 14 海の恵みを生かそう			

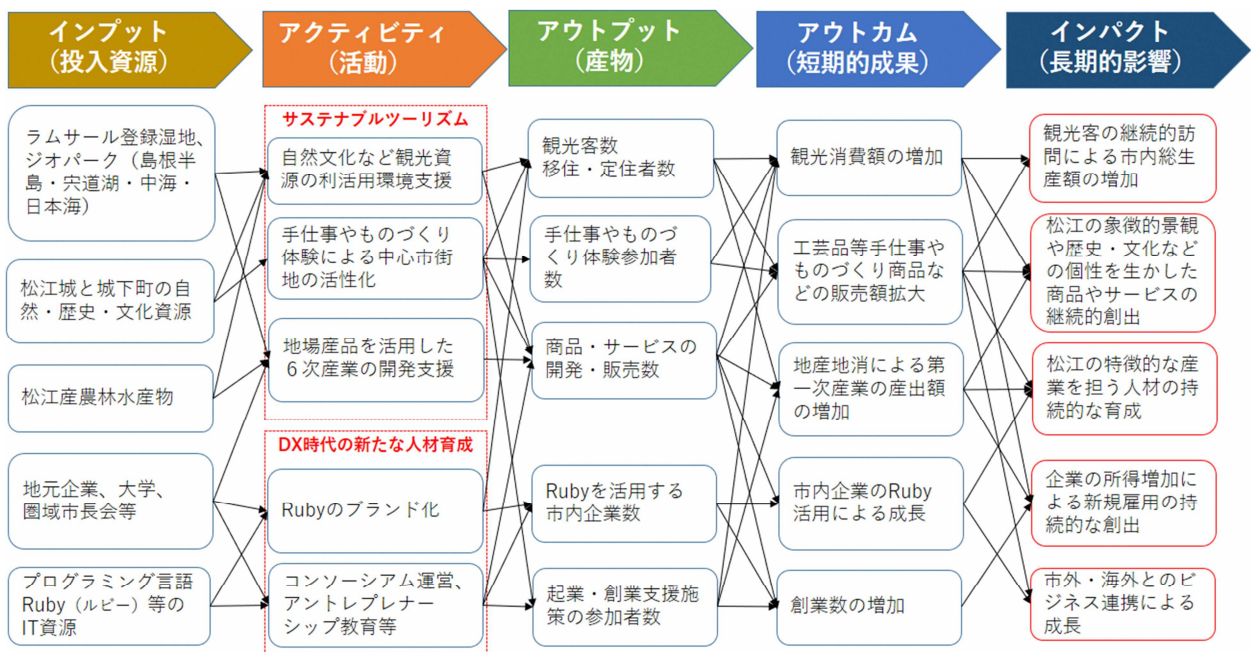
■ゴール・ターゲット・KPIの理由

8.9 「水の都」や「城下町」などの「国際文化観光都市」の魅力によって商品やサービスの高付加価値化が図られることで観光消費額が伸び、国の観光立国政策へも貢献できる。また、起業や新ビジネスへの挑戦などを通じて市内産業全体の付加価値が高まり、経済成長につながる。





2.3,14.b 農水商工連携を推進し、6次産業化を推し進めることで、第一次産業の需要拡大により生産者所得と生産基盤が安定し、持続可能な産業となる。

■取り組みのポイント

- ① 起業や新ビジネスに挑戦する人材育成と革新的な技術・商品・ライフスタイルの創出
- ② 松江ならではの手仕事やものづくり体験
- ③ 6次産業化や農水商工連携の推進による商品開発や販路拡大
- ④ 松江の魅力を生かした観光振興と広域連携



(社会)

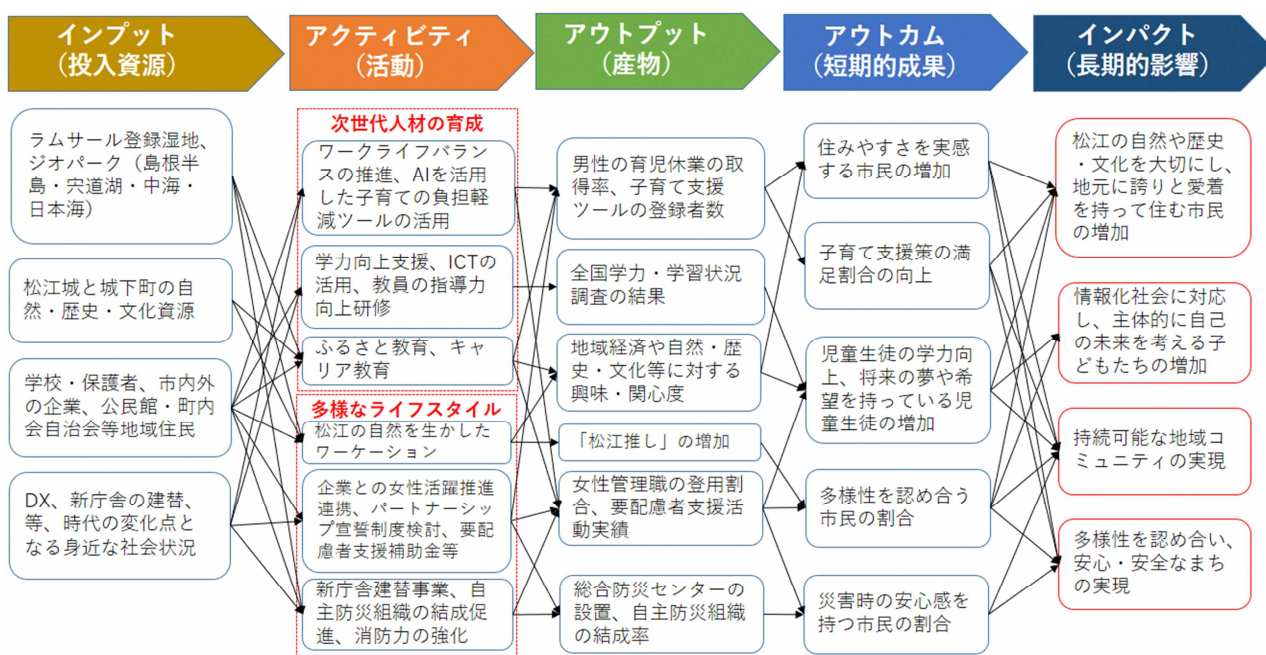
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
4 質の高い教育を みんなに 	4.7	指標: 将来の夢や希望を持っている児童・生徒の割合
	10.2 11.a 16.7	現在(2024年): 小学生 81.6% 中学生 64.1% 2030年: 小学生 87% 中学生 72%
10 人々の平等を もたらそう 		指標: 住みやすさを実感する市民の割合
		現在(2024年): 75.3% 2030年: 90%
11 住み分けられる まちづくりを 		指標: 合計特殊出生率
		現在(2023年): 1.41 2030年: 2.22
16 平和と公正を すべての人に 		

■ゴール・ターゲット・KPIの理由




4.7,10.2,11.a,16.7 地域や職場、学校、家庭など、あらゆる場面において誰もが自分の個性と能力を十分に発揮し、多様なライフスタイルを享受できることで、地域に対する誇りや愛着が生まれ、次世代を担う人材を育む環境が創出される。

■取り組みのポイント

- ①子ども連れや家族で楽しめる憩いの機会の創出
- ②個性と能力を伸ばし、地域資源や海外の文化に触れる教育
- ③多様性を認め合う共生社会の創出と連携強化
- ④「水の都 松江」を実感できる多様なライフスタイル
- ⑤安心・安全の質の向上



(環境)

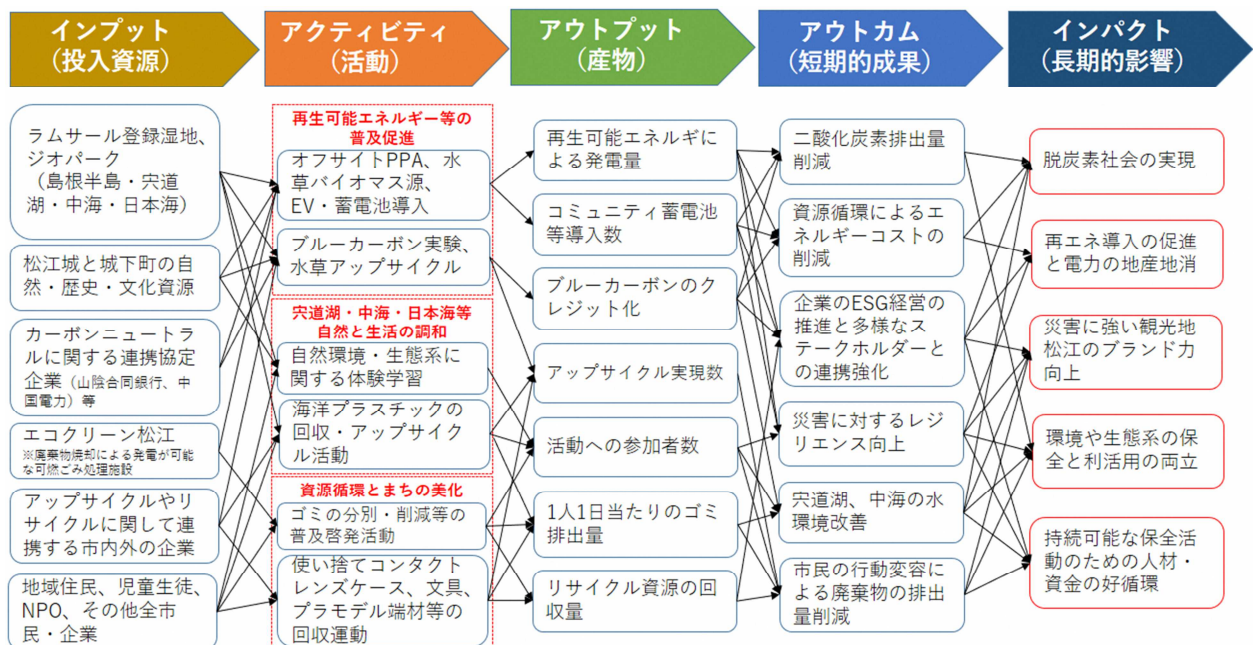
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12.4	指標: 二酸化炭素排出量	
	現在(2022年): 1,420 千t-CO ₂	2030年: 916 千t-CO ₂
 6.3  14.1 14.2	指標: 宍道湖の水質(COD75%値)	
	現在:(2024年) 5.16mg/L	2028年: 4.6mg/L
	第8期島根県湖沼水質保全計画改定後、速やかに目標値を2030年に更新する。	

■ゴール・ターゲット・KPIの理由

- 12.4 太陽光・風力・地熱・小水力・木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及を図るほか、宍道湖・中海・日本海の水草や海藻によって吸収されるCO₂(ブルーカーボン)を活用した脱炭素の取り組みで、CO₂削減が進む。
- 6.3,14.1,14.2 「水の都 松江」を代表する汽水域である宍道湖・中海及び日本海を展開エリアとした市民一体となった取り組みを行い、生態系の回復と成長が図られる。

■取り組みのポイント

- ①2050年のカーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーの普及促進
- ②宍道湖・中海・日本海をはじめとする豊かな自然と歴史文化の調和
- ③資源循環とまちの美化



2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

国際課題であるSDGsを達成するとともに、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を実現することにより、人口減少対策という積年の課題解決を前進させるとともに、市内経済の更なる成長と発展をもたらす。

■2030年へのロードマップ

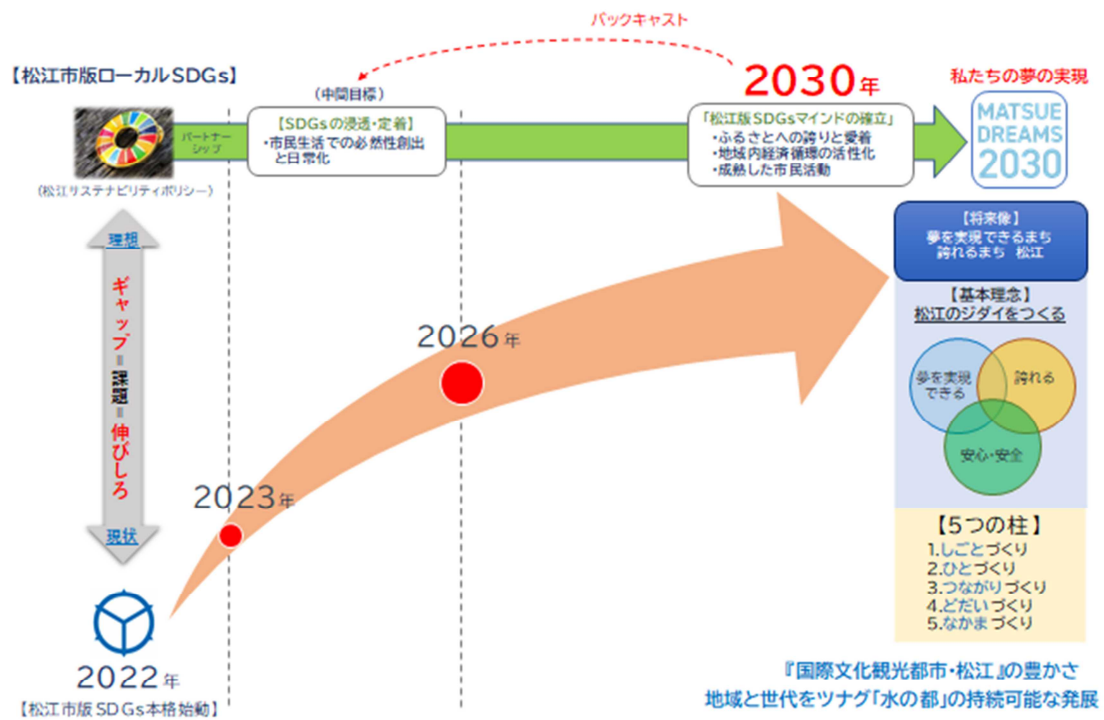
2022年:松江市版SDGsと共にまちづくりを加速

2023~25年(中間目標):「SDGsの浸透・定着」

☞ 市民生活での必然性創出と日常化

2026~2030年:松江市版SDGsマインドの確立



☞ ふるさとへの誇りと愛着、地域内経済循環の活性化、成熟した市民活動



【ロードマップイメージ】

(経済)

① 起業や新ビジネスに挑戦する人材育成と革新的な技術・商品・ライフスタイルの創出

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.3	指標：創業数(新設法人数)	
	現在(2024年): 105社	2030年: 145社
 9.5	指標：市内ソフト系企業売上高	
	現在(2024年): 30,329百万円	2030年: 36,800百万円

【主な取組】


●MATSUE 起業エコシステムの構築

松江発の新ビジネスが継続的に生まれ育つ仕組みづくりとして、2023年1月に産学官金19団体で構成するコンソーシアムを設立した。コミュニティ「MIX」の運営のほか、アントレプレナーシップ教育を行うなど、チャレンジャーの目標に寄り添った支援を提供し、地域産業の持続的発展を図る。

●Ruby City MATSUE プロジェクトの推進

プログラミング言語 Ruby の生みの親であり、松江市在住の名誉市民「まつもとゆきひろ」氏との縁をもとに、「Ruby のまち」としての地域ブランド創生、Ruby 人材の育成・定着、IT 企業の裾野拡大と集積などを促進する。

② 松江ならではの手仕事やものづくり体験


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.3	指標：出雲かんべの里工芸ショップ及びクラフト展での工芸品販売額	
	現在(2024年): 9,246千円	2030年: 13,300千円

【主な取組】

●松江工芸の魅力発信と担い手育成、職人商店街創出

松江にある「ものづくりの文化」や、老舗の伝統工芸店・工芸職人をつなぐ「職人商店街」を創造し、中心市街地の賑わいを取り戻す。工芸体験ができる店舗改装の支援などにより、松江に住む子どもたちにとっての「誇れるまち」の実感とまちの回遊性を高める。さらに Web サイトを通じて松江工芸の魅力を発信していく。

③ 6次産業化や農水商工連携の推進による商品開発や販路拡大

ゴール、 ターゲット番号	KPI		
	2.3	指標: 第一次産業新規就業者数	
	14.7	<table border="1"> <tr> <td>現在(2024年): 94人(2022年度からの累計)</td> <td>2030年: 280人(2022年度からの累計)</td> </tr> </table>	現在(2024年): 94人(2022年度からの累計)
現在(2024年): 94人(2022年度からの累計)	2030年: 280人(2022年度からの累計)		
		指標: 農水商工連携での新商品開発数	
		<table border="1"> <tr> <td>現在(2024年): 95品(2010年度からの累計)</td> <td>2030年: 108品(2010年度からの累計)</td> </tr> </table>	現在(2024年): 95品(2010年度からの累計)
現在(2024年): 95品(2010年度からの累計)	2030年: 108品(2010年度からの累計)		

【主な取組】

●売れる農林水産物の生産振興と消費・販路拡大

そば・大豆・西条柿など特色ある松江産農産物のブランド化と販路拡大を図るとともに、学校給食現場などでの地産地消と食育を推進する。また、市の重点推進品目の生産拡大を市内全域で推進し、産地化と小規模農家の所得向上を図るほか、アワビ種苗の陸上養殖の実用化への取組や、大根島牡丹の産地維持と国内外への販路拡大を図る。

● 6次産業化や農水商工連携による地域経済の活性化

農林水産業者と商工業者の業種を超えた連携を促し、地域資源を活用した新商品開発と販路拡大を図る。事業者マッチングや研修会・交流会の他、新商品開発の助成やイベント出店支援などを行い、地産地消(外消)と食・産業・体験にまつわる新たな観光素材づくりを進める。

④松江の魅力を生かした観光振興と広域連携

ゴール、 ターゲット番号	KPI			
	8.9	指標: 観光入込客数		
		<table border="1"> <tr> <td>現在(2024年): 873万人</td> <td>2030年: 1,100万人</td> </tr> </table>	現在(2024年): 873万人	2030年: 1,100万人
	現在(2024年): 873万人	2030年: 1,100万人		
		指標: 観光宿泊客数		
		<table border="1"> <tr> <td>現在(2024年): 178万人</td> <td>2030年: 250万人</td> </tr> </table>	現在(2024年): 178万人	2030年: 250万人
	現在(2024年): 178万人	2030年: 250万人		
	指標: 外国人観光宿泊客数			
	<table border="1"> <tr> <td>現在(2024年): 6.38万人</td> <td>2030年: 15万人</td> </tr> </table>	現在(2024年): 6.38万人	2030年: 15万人	
現在(2024年): 6.38万人	2030年: 15万人			

【主な取組】

●「松江城」や「水の都 松江」の強みを生かしたプロモーションとブランディング戦略



2023年2月に策定した「MATSUE 観光戦略プラン 2023-2029」に基づき、本市の重要産業である観光による地域経済の持続的な発展を図る。「城下町」や「水の都」を生かして観光素材を更に磨き上げる。

また、水辺の利活用促進をキープロジェクトに、観光客が歩きたくなるまちなみ環境整備と観

光を担うひとづくりを進めるほか、圏域自治体とも連携してインバウンドの増加を目指す。加えて、新たな観光推進組織づくりと新たな観光財源の検討を進めるなど、観光地松江の土台づくりを進める。

(社会)

①子ども連れや家族で楽しめる憩いの機会の創出

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4.2	指標: 男性の育児休業取得率	
	現在(2024年): 46.4	2030年: 78%
 5.4	指標: 子育て支援策の満足割合	
	現在(2024年): 62%	2030年: 80%


【主な取組】

●ワーク・ライフ・バランス、子育ての支援

ワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組む企業や団体が加入する「松江ワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」など、市内企業や市民、行政が一体となって男性の育児休業取得促進などに取り組む。

また、「まつえの子育て AI コンシェルジュ」、「保育所等 AI 入所選考システム」、病児保育のネット予約サービスの活用など、親子の触れ合いの機会創出と安心して子育てできる環境の充実に取り組む。

②個性と能力を伸ばす教育、地域資源や海外の文化に触れる教育

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4.1	指標: 全国学力・学習状況調査における全国平均値以上の学校の割合	
	現在(2024年): 小 6…30.3%	2030年: 小 6…75%
	中 3…37.5%	中 3…80%

【主な取組】


●「夢☆未来」学力育成、ふるさと・キャリア教育の推進

小中学校に学力向上支援講師及び学力向上支援員を配置し、児童生徒の「確かな学力」を育成する。

加えて、「松江市版GIGAスクール構想」に基づき、市立小・中・義務教育学校の情報化社会に対応できる能力育成を一層進める。

また、「まつえ『子ども夢☆未来』塾(職業人出前授業)」や「松江城授業プロジェクト」などを通じて、ふるさとを愛し、主体的に自己の未来を考える子どもたちを育む。

③多様性を認め合う社会の創出と連携強化

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5.1 5.5	指標：固定的な性別役割分担意識にとらわれない市民の割合	
	現在(2024年): 78.9%	2030年: 85%

【主な取組】


●男女共同参画、多文化共生、要配慮者への支援

企業の女性活躍推進企業認定「えるぼし」を推進するほか、地元大学の情報系以外の学生を対象とした「まつえ IT 女子インターンシップ」の実施など、企業との連携を深めている。さらに、婚姻に準ずる「パートナーシップ宣誓制度」の導入検討を進めるなど、「性のあり方」にかかわらず誰もが活躍できる社会環境を整備する。

また、要配慮者が安心して地域社会で暮らせるよう、市政情報の多言語化や災害時の支援体制などを整備するほか、出前講座等を通じた障がいへの理解促進と合理的配慮の普及に取り組む。

地域活動の成功事例発表会の場や地域課題の提案イベントを通じて、様々な立場のステークホルダーがそれぞれの強みを生かし、連携しながらまちづくりを進める。

④「水の都 松江」を実感できる多様なライフスタイル

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11.7	指標：水辺が利用しやすいと感じる市民の割合	
	現在(2024年): 30.9%	2030年: 70%



【主な取組】

●関係人口の創出、松江式ワークケーションの展開

自然の豊かさや観光・食など松江ならではのワークケーションの魅力を生かすとともに、ヘルスケアや地域との交流を取り入れたワークケーションプログラムの提供で「松江推し」を増やしていく。

また、水辺での日常的な賑わい創出実験や「水の都」を感じることでできるアクティビティの提供、水辺ステージや多目的テラスの供用開始など順次水辺エリアの機能強化を図るとともに、「中海」エリアにおける県境を跨ぐ全国初の試み「AI デマンドバス」の運行など、「水の都」にふさわしい取組を進める。

⑤安心・安全の質の向上

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11.b  13.1	指標：災害時の安心感を持つ市民の割合	
	現在(2024年)： 43.3%	2030年： 60%

【主な取組】

●新庁舎整備、防災力・消防力の強化


市庁舎は、2021年に建て替え工事を開始し、2026年5月のグランドオープンに向けて着々と工事を進めている。免震構造の新庁舎には各種防災機能を連携し統括管理する総合防災センターを設置し、市民の新たな安心・安全の拠点とする。

また、町内会・自治会単位で結成される自主防災組織の結成を促進し、地域における防災意識の啓発活動を支援することで、住民相互の協力体制を中心とした地域防災力の強化に努める。

さらに、消防署に指揮隊を設置し、現場対応力の強化を図るとともに、消防団との連携を深め、市域全体の消防力を高める。



(環境)

①2050年のカーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーの普及促進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12.4	指標：温室効果ガス削減率	
	現在(2022年)： 16.3%	2030年： 47.0%

2023年3月に「松江市再生可能エネルギービジョン」を策定した。太陽光・風力・地熱・小水力・木質バイオマスなどのほか、宍道湖・中海・日本海の水草や海藻によって吸収されるCO₂(ブルーカーボン)の活用など、あらゆる取組を通じてカーボンニュートラルを実現する。

②宍道湖・中海・日本海をはじめとする豊かな自然と歴史文化の調和

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 13.3  14.2	指標：海岸等漂着ごみボランティア清掃参加者数	
	現在(2024年)： 4,954人	2029年： 5,700人



「松江市環境基本計画」改定後、速やかに目標値を2030年に更新する。

【主な取組】

●海岸漂着ゴミの対策

日本海に面している本市にとって大きな課題の一つである海岸漂着ごみ問題を前進させるため、地域住民や行政・企業・団体等との連携を強化して解決へのプロセスを構築する。漂着ゴミの現状・課題のほか、松江固有の自然環境や生態系について市民全体の理解を更に促すとともに、アップサイクルの楽しみや気づきを通じて回収ボランティア活動の裾野を拡大し、市民の行動変容に繋げる。

③資源循環とまちの美化

ゴール、ターゲット番号		KPI	
 11	11.6	指標：1人1日あたりのごみ排出量	
	12.5	現在(2024年)： 957g/人日	2029年： 898g/人日
 12		<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; color: red;"> 「松江市環境基本計画」改定後、速やかに目標値を2030年に更新する。 </div>	

【主な取組】

●4Rの推進

使い捨て包装容器やプラスチック製品の使用削減のほか、リユースやリサイクルを市民や企業と協働で進めるとともに、ゴミの分別推進やアップサイクルによる高付加価値化を図ることで、食品ロス対策や脱プラスチックなどの市民生活に身近な分野を意識した取り組みを進める。

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標：ふるさと寄附額 (用途「宍道湖・中海などの自然を生かしたまちづくり」)	
現在(2024年)： 97,136 千円/年	2030年： 140,00 千円/年

本市の水環境を生かしたまちづくりの取組が市外在住者に高く評価され、松江に関わりがある縁者などを通じて松江の認知度が広まることで更なる賛同者の輪が広がり、ふるさと寄附による支援が増加する。

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標：UI ターン者数	
現在(2024年)： 1,095 人	2030年： 1,230 人

地域資源を生かした産業振興が図られることで、松江での生活基盤の魅力が高まり、若者の地元定着が増加するとともに、本市での就業を希望する都会地等からの UI ターン者数も増加する。

(社会→環境)

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標：認定ジオガイド養成数及び環境市民会議会員数	
現在(2024年): 認定ジオガイド 62人 環境市民会議会員 (個人)311人 (団体)49団体 (事業所)108企業	2030年: 認定ジオガイド 80人 環境市民会議会員 (個人)330人 (団体)55団体 (事業所)115企業

自然環境に関する市民の保全・活用の活動が浸透し、住民自らが地域資源の保全を主体的に行うことで、自然環境保全活動のリーダー人材の育成が図られる。

(2)情報発信

松江市 SDGs アドバイザー(市民パートナーシップ・アドバイザー)及び広報企画官との連携により、わかりやすく活用しやすい情報発信を行う。

(域内向け)

■市の基礎的情報基盤

市報や SNS、動画などを活用した全世代型の情報発信に加え、多様なターゲットに直接訴えかけることのできる情報発信チャンネルの向上と市の組織体制整備を進める。

■松江市版ポータルサイトの活用

松江市内の情報が集まる「まつえナビ」において、SDGs 達成に向けた取組みを「みんなの SDGs」として募集・発信している。併せて、国内の先進自治体や大学、姉妹都市、海外の友好都市などとの連携による情報発信により、松江ならではの特徴ある情報発信を目指す。

■松江市 SDGs ウィークの開催

市民を対象に SDGs をテーマにした期間イベントを実施する。

■「水の都 tube」僕らの ESD 教材プロジェクト

島根大学と連携して作成したこども向け SDGs の啓発動画を作成し、配信するとともに、市内小中学校へ DVD を配布している。学校教育現場や地域学習での啓発と取組の裾野拡大を目指す。

(域外向け(国内))

ふるさと松江の SDGs への理解促進とふるさと寄附を通じた市民へのフィードバックの取組を進める。また、中海・宍道湖・大山圏域の自治体と連携した魅力発信により、サステナブルツーリズム等の相乗効果を発揮する。

(海外向け)

松江市版ポータルサイトやトップセールスなどを通じて友好都市提携を結んでいる海外都市と情報共有・連携を図ることで、インバウンドの増加はもとより、SDGs の横展開や市内企業の海外進出環境の強化、市民レベルでの交流の促進を図る。

(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

ブランド力のある地域資源を生かした SDGs は、コロナ禍を経て停滞した地方の観光産業の復興と新たな課題発見にとって参考となる。

また、城下町から農村・漁村まで市内各地域の様々な個性を生かしたまちづくりや県庁所在市ならではの多様なステークホルダーとのパートナーシップによる市民運動の展開、通勤圏や生活圏を同じくする中海・宍道湖・大山圏域の自治体間連携のロールモデルにもなる。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 基幹計画

【松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」】

従来は別々に策定していた「総合戦略」と「総合計画」を一体のものとし、目標年度をSDGsと同じ2030年に定めた。バックキャスト手法を導入するとともにSDGsのゴールと施策との結び付けを明記し、持続可能な「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」のまちづくりに取り組むこととした。(2022年3月策定済)

2. その他の計画 ※代表的なものを抜粋

【松江市環境基本計画】

2025年度を目標年次とし、脱炭素社会の実現を重点目標に定めた「環境基本計画」について、SDGsのゴールを計画の取り組みと関連付け、環境だけでなく経済、社会にも関わる複合的な課題解決が重要であることを意識付けした。(2021年3月策定済)

「松江市環境基本計画」、「松江市地球温暖化対策実行計画」、「松江市再生可能エネルギービジョン」を統合し、2029年度を目標年次とした新たな「松江市環境基本計画」についても、同様に記載する予定。(2026年3月策定予定)

【松江市地球温暖化対策実行計画】

2025年度を目標年次とし、地球温暖化防止を目指して環境基本計画を具体化する「松江市地球温暖化対策実行計画」について、SDGsをカーボンニュートラル社会実現のための施策体系に位置付けた。(2024年3月策定済)

【松江市再生可能エネルギービジョン】

2025年度を短期目標年次とし、脱炭素社会の実現に向けた、再生可能エネルギーの導入拡大を定める「再生可能エネルギービジョン」について、SDGsの理念を核に市内の住宅や事業所における再生可能エネルギー導入支援に加え、水資源などの松江らしい特性を踏まえた再生可能エネルギー導入の可能性を調査追求し・地域経済の活性化につなげる。(2023年3月策定済)

【MATSUE 観光戦略プラン 2023-2029】

2030年を目標年次とし、コロナ禍による影響や観光地の地域間競争などに対応する目的で策定した「MATSUE 観光戦略プラン 2023-2029」について、SDGsの理念をパートナーシップの強化や観光資源の活用、オーバーツーリズムの抑止など、世界を意識した持続可能な観光の基盤に据えた。(2023年2月策定済)

【松江市住生活基本計画】

2032年度を目標年次とし、誰もが安心して暮らし続けられる住まいづくりに向けた基本指針を定める「松江市住生活基本計画」について、SDGsを基本理念実現のための一体的なゴールとして基本目標に明記し、取り組みを推進していくこととした。(2023年3月策定済)

【第3次松江市男女共同参画計画】

2026年を目標年次とし、男女共同参画社会の実現に向けた施策の指針となる「第3次松江市男女共同参画計画」について、SDGsを達成する意志を基本目標に明記し、様々な関係者と連携しながら我が国のジェンダーギャップ是正に寄与する取り組みを推進していくこととした。(2022年3月改定済)

【松江市過疎地域持続的発展計画】

2030年を目標年次とし、過疎地域の脱却と持続可能な地域づくりへの取組を定める「松江市過疎地域持続的発展計画」について、SDGsによるまちづくりの視点を盛り込み、施策を整理して記載する予定。(2026年3月改定予定)

【MATSUE Park Vision】

2033年を目標年次とし、市内にある400の公園を「使いやすい」「使いこなせる」施設とするための指針となる「MATSUE Park Vision」について、将来も利用したくなる「魅力的な」「利用しやすい」公園づくりを進めることで、公園が有する機能の向上を図り、SDGsへの達成度を高めることを明記した。(2024年3月策定済)

【第2次松江市空家等対策計画(追補版)】

2026年を目標年次とし、空家等対策をより一層推進するため策定された「第2次松江市空家等対策計画」について、空家法の一部改正に伴う中間見直しの際、基本方針ごとに目指すSDGsのゴールを示し、取り組みを推進していくこととした。(2024年10月追補)

【松江市消防計画】

2029年を目標年次とし、松江市消防本部の「目指すべき姿」を明らかにする基幹計画として策定された「松江市消防計画」について、市民が安心して暮らせる社会を実現するとともに、SDGsの達成にも貢献する旨を明記し、取り組みを推進していくこととした。(2025年3月改定済)

【こどもまんなか松江プラン(松江市こども計画)】

2029年を目標年次とし、全てのこども・若者が幸せな生活を送ることができる社会を目指して策定された「こども基本法」をもとに、松江市におけるこども・若者のためのあらゆる施策をとりまとめた「こどもまんなか松江プラン(松江市こども計画)」について、SDGsを達成する意志を基本目標に明記し、「こどもまんなか松江」の実現に向けて各施策を展開していくこととした。(2025年3月策定済)

【第6次松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画】

2029年を目標年次とし、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域共生社会の実現に向け、いかに地域課題の解決に取り組んでいくかを内容とする「第6次松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画」について、具体的な取り組みを通じてSDGsに貢献することとした。(2025年3月策定済)

【第5期松江市ものづくりアクションプラン】

2027年を目標年次とし、市内のものづくり企業の振興に取り組むため策定された「第5期松江

市ものづくりアクションプラン」について、SDGs達成に向け松江市のものづくり産業に求められる役割を明記し、変化に強い持続可能な企業づくりを推進していくこととした。(2025年3月策定済)

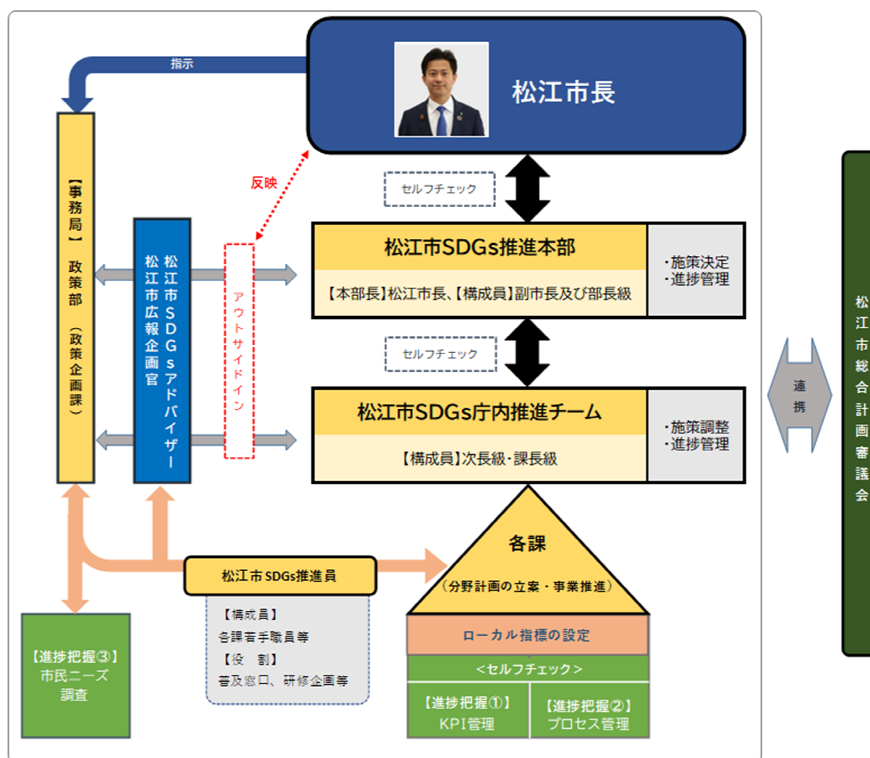
(2) 行政体内部の執行体制

■進捗管理のしくみ

市長の強力なリーダーシップのもと、組織ガバナンスの全般にわたり外部登用人材である「松江市 SDGs アドバイザー」及び「広報企画官」の客観的な視点により、着実な SDGs の推進を目指す。併せて、当事者側（職員）の検証にセルフチェックとアウトサイドインのチェックプロセスを織り交ぜ市役所内部の推進体制強化を図るとともに、より多角的な進捗管理と人事異動による職員の成熟度に左右されにくい持続的な検証体制を構築する。

■各体制の役割

- 庁内各部署…分野計画の立案・事業推進、セルフチェック
 - 「SDGs 推進員」…若手職員等<普及窓口、研修企画等>
 - 「SDGs 庁内推進チーム」…次長・課長級<施策の調整、進捗管理>
 - 「松江市 SDGs 推進本部」…市長以下部長級以上<施策決定・進捗管理>
- 「松江市総合計画審議会」… 外部会議、情報共有・進捗管理・提言
- 事務局…政策部政策企画課
- 総合監修…松江市 SDGs アドバイザー(2022 年 9 月～)
 - ①サステナビリティ・アドバイザー
(SDGs の進捗管理手法・SDGs に関する制度構築などに関する指導・助言)
 - ②市民パートナーシップ・アドバイザー
(SDGs に関する市民との連携・SDGs に関する教育や情報発信等に関する指導・助言)
- 広報監修…松江市広報企画官(2022 年 5 月～)
 - (公式 SNS のアクションプランの作成、市の情報発信の分析、改善提案、職員研修等)



■評価方法

- 本市の SDGs にかかる総括評価は、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」の検証に合わせて行う。(個別計画については、各計画に定める進捗管理の方法による)
- アウトサイドインの視点を基本に据え、施策プロセスを意識できる以下の3つのポイントで進捗状況を把握し、その後の施策推進にフィードバックする。

①施策・事業の KPI 評価

- 設定した KPI については、主に総合計画の KPI を活用しており、計画の実効性・即応性を高めるため、計画(企画)・実施・評価・改善の PDCA サイクルを通じた評価検証を毎年度実施する。

②行政内部のプロセス評価

- 自治体版 SDGs 診断ツールの活用等により、取組状況をセルフチェックする。市としての強みや弱みが明確化され、また市内部の実施体制の成熟度などを見える化することにより、市全体での意識共有を図る。

③市民アンケート

- 総合計画推進の一環で行う「まちづくりアンケート」に SDGs の設問を設け、SDGs への市民の理解度や主体的取組の意志のほか、SDGs 普及の阻害要因などを把握するとともに、毎年度の継続実施により啓発効果を高め、市民の行動変容を促す。

(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

① 住民

(地 域) 地域課題に最も身近な市内 29 地域の公民館及び町内会自治会連合会との連携を全ての取組の基礎的な体制に位置付け、ともに取り組みを進めることで、地縁を生かした円滑な課題解決と継続的な地域人材の育成を図る。

(若 者) 市内に高等教育機関等が集積するほか、若者団体によるまちづくりの機運が芽吹き始めた優位性を生かして、SDGs 推進の中核に若者・女性人材を据え、従来のカテゴリや手法などの固定観念に縛られない、トライ・アンド・エラーによるチャレンジが可能な場づくりを行う。

(UI ターン) 長期居住による先入観にとらわれない立場の多様な気づきを新たな選択肢として提示してもらうとともに、プレイヤーとしても高い機動性を期待してもらえるよう、他のベテランステークホルダーとの良好な関係を構築しやすい環境づくりを支援する。

②企業・金融機関

➤ 異業種交流研修などを通じて、組織の枠にとらわれない実務的な人材育成を進める。

③教育・研究機関

➤ 市内小・中学校、義務教育学校及び高校の地域課題研究の支援や「ミライソウゾウプログラム」の開発実践を通じて、ふるさとへの誇りと愛着を育み、SDGs への挑戦とアントレプレナーシップの機運醸成を図る。また、本市の強みである中・四国地方唯一の公立の女子高校「市立松江皆美が丘女子高等学校」との連携により、次世代に活躍できる女性人材の育成を進める。

➤ 小中学校での SDGs 出前講座などを通じて、次世代人材を育む教育現場や保護者への SDGs の浸透を図り、子どもたちが接する日常環境における SDGs の普及促進を図る。

➤ 島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校などの地元の高等教育機関はもとより、法政大学・東京大学などの市外大学の学生参加による、サステナブルツーリズムの試験ツアーや企業プロボノへの参画協力の実績などをもとに、関係人口の強化と SDGs の視点を盛り込んだ学術研究の機運向上を行う。



④NPO 等

➤ 本市には、子育てや公共交通など様々な分野課題に主体的に対応する実効性あるプレイヤーが多く存在する。また、各団体の関係づくりの場として「松江 NPO ネットワーク」が設立されているため、多様な主体が繋がることで SDGs 達成への取り組みを官民の協働で進める。

➤ ラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海並びに「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」の保全活動を実践する自治体や NPO 等が構成する各種協議会と連携し、共通の目標達成に向け相乗効果を発揮する。

2. 国内の自治体

- 県境や市境を跨いで生活圏や文化圏を一にする中海・宍道湖・大山圏域の自治体とともに本市の SDGs 達成への取組と、圏域の共通課題の解決に取り組むことで、スケールメリットを生かした相乗効果を発揮する。
- 松江開府の祖・堀尾吉晴公の縁により生誕地である愛知県大口町との中学生の修学旅行交流を実施している。また、宝塚市とのスポーツ少年団交流など、子どもたちの SDGs 教育活動を通じた姉妹都市の交流活動を研究し、相互理解と次世代を担う人材育成を強化する。



3. 海外の主体

- 海外の国や地域、都市との交流を引き続き行う。
- 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の縁で親交のあるアイルランドのほか、中国(吉林市、銀川市、杭州市)、韓国(晋州市)、アメリカ(ニューオーリンズ市)の友好都市と SDGs をテーマとして交流の深化を図る。
- 松江市を含む中海・宍道湖・大山圏域市長会として 2025 年 10 月に経済交流覚書を更新したインド・ケララ州、2022 年 10 月に交流促進の覚書を締結した台湾・台北市と産業・経済分野での交流の深化を図る。



- 今後関係構築が期待されるアメリカに関しては、本市が進める「Ruby City MATSUE プロジェクト」や「MATSUE 起業エコシステム」を推進し、本市が「シリコンバレーへのゲートウェイ都市」となることも視野に入れ、実現可能性や連携方策について検討を図る。
- また、これまでの既成概念にとらわれずに市の組織変革を推し進めるため、世界標準の先進的な自治体との連携も視野に入れる。

(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

■ジュニア SDGs リーダー育成事業等

- 小中高生対象の人材育成リーダー研修の実施により、課題解決やパートナーシップのマネジメントスキルのある次世代プレイヤーを育成し、持続可能なローカル SDGs の基盤強化を目指す。

(将来的な自走に向けた取組)

- 自然・生態系、歴史・文化などへの市民の関心や、市内企業の経営改革への挑戦心が薄れてしまうと、これを拠り所とする経済的な活動が低迷し、発展の可能性が失われるとともに、現状を維持する体制すら脆弱になりかねない。
- 本市の SDGs の好循環サイクルを自走させるためには、立場が異なるステークホルダーが総合計画に謳う「夢の実現」と「まちへの誇り」を松江市民共通の目的に掲げ、その実現を阻む様々なボトルネックを自らが解決しようとする風土の定着と更なる醸成が必要である。そのために、まずは人材育成を重点目標にコンソーシアムを軌道に乗せることで、課題解決を恐れない、「コーディネートできるプレイヤー」の裾野を広げていく。
- また、次世代の主要アクターである小中学生や高校生などのような比較的限られたエリアを主とする生活者とその保護者へは、より一層松江の魅力を客観的な視点で認識してもらえよう、体験を通じた啓発活動などに特に重点を置く。

4 地方創生・地域活性化への貢献

■現状

- 豊かな自然と歴史・文化に育まれた「国際文化観光都市 松江」が進めるまちづくりは気候変動対策や脱炭素化、SDGs の達成、生物多様性などの世界が目指す持続可能な社会の形成と目的を一にし、親和性が非常に高い。
- 本市にとっての SDGs は、まちづくりのための極めて重要な羅針盤になると考えており、「MATSUE DREAMS 2030」の実現のためには、SDGs をまちづくりの中核に据えて取り組むことが不可欠である。

■オール松江市で取り組む SDGs

- 古くからの本市のまちづくりの特徴の一つに公民館を拠点にした住民主体のまちづくりがあり、行政施策の隙間をきめ細かに埋める多彩な活動は住民が価値観を互いに共有することで成功してきた。
- 本市は、市の重要課題である SDGs を地域に根付いた共通言語にし、グローバルな羅針盤を市民に身近なローカルレベルにフォーカスしてオール松江市で取り組むことで、地方創生を実現する。

■脱炭素社会実現への道のり

- 本市は、2020 年 12 月に「ゼロカーボンシティ」を表明し、2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることを長期的な目標に掲げている。
- 2022 年 6 月に民間企業と共に「カーボンニュートラルに関する連携協定」を締結し、2023 年 3 月に再生可能エネルギービジョンを策定した。4 月に「脱炭素先行地域」に選定されたことを契機に、さらに「国際文化観光都市 松江」ならではの脱炭素先行モデルを構築する。

■私たちが目指す持続可能なまちづくり

- 松江には「茶の湯文化」を花開かせた松江藩松平家 7 代藩主「松平不昧公(治郷)」や松江に残る日本の伝統文化の魅力を「オープンマインド(開かれた精神)」によって捉え、その魅力を絶賛した「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)」など、SDGs の先駆者たちがいた。
- 本市は全市を挙げて「SDGs 未来都市計画」の取組を進めることで、先人から連綿と受け継いできた豊かな自然・歴史・伝統・文化などの古き良き価値を更に際立たせ、脱炭素や DX、働き方改革などの次代への新たな潮流と掛け合わせることで、松江に関わる全ての人にとって「サステナブルな松江」となることを目指す。

松江市第2期SDGs未来都市計画
(2026~2030)

令和8年3月 策定